

平成30年 11月 末日

平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城山西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	20人	算数	20人	理科	20人
第5学年	国語	15人	算数	15人	理科	15人

5 留意事項

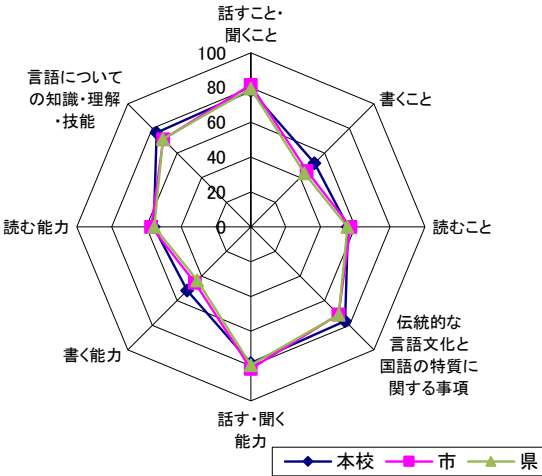
(1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

(2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	78.3	81.6	79.4
	書くこと	51.7	45.4	43.6
	読むこと	55.8	57.2	55.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	76.5	71.1	71.4
観点	話す・聞く能力	78.3	81.6	79.4
	書く能力	51.7	45.4	43.6
	読む能力	55.8	57.2	55.5
	言語についての知識・理解・技能	76.5	71.1	71.4



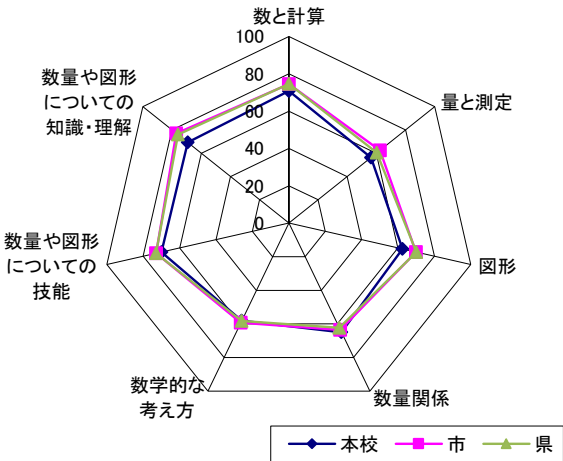
★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は78.3%で、市平均をやや下回った。 ○「話し合いにおいて司会者の役割を理解し進行する」設問や「理由を挙げながら筋道を立てて話す」設問では、概ね理解することができていた。 ●「話し合いにおいて司会者の役割を理解し発言する」設問では、話し合いの流れに合うように、司会の適切な発言をまとめて記述することが難しい児童が多数であった。	自分の意見を発表するときはそう考えた理由も添えて発表させるなど、論理的思考を育むような授業を工夫していく。また、他教科との関連を図り、聞き取った事柄の主旨を、適切な言葉で要約して表す経験を積ませたい。 また、話し合いの仕方を定着するために、学級活動の時間を活用して話し合い活動を行い、円滑な話し合いのための司会の役割について考える機会を設けたい。
書くこと	平均正答率は51.7%で、市平均を上回った。 ○すべての設問において、市内の平均を上回った。 ●「メモを基に、報告レポートに適切な内容を書き入れる」と「メモや友達の意見を基に、報告レポートの内容を書く」設問では正答率が低かった。自分の考えを記述できた児童が少なかった。自分の考えを書いて表現する力がやや不足していると思われる。	「資料」、「メモ」、「レポート」など複数の資料を関連付けて、内容を読み取る経験を増やしていき、それを書いて表す力を身に付けさせていく必要がある。国語の学習を核として、理科・社会などの他教科においても複数の資料を照らし合わせて内容を読み取り、それを文章で表現する機会を増やし、書くことへの抵抗感を軽減していきたい。
読むこと	平均正答率は55.8%で、市平均をやや下回った。 ○「中心となる語や文を捉えて読む」問題では、正答率が市平均よりも大きく上回った。 ●「叙述を基に、登場人物の気持ちを想像して読む」設問では、市の平均を大きく下回った。	文学作品を読む機会を多く設け、文章に書かれていることから登場人物の性格を推測する経験を積ませたい。また、じっくりと叙述を読む訓練を日々の授業の時間で行いたい。そのために読書指導に力を入れ、読み聞かせの後には「人物の考え方や性格をみんなで考える」などの活動も取り入れていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は76.5%で、市平均を上回った。 ○漢字の読み書き問題については概ね市の平均を上回っており、学習内容が定着している。 ●「国語辞典の使い方」の設問では、市の平均を大きく下回った。	漢字の読み書きは比較的定着しているの、ステップアップシートなどを活用しながら、今後も継続して定着に努めていく。 「ローマ字の表記」「国語辞典の使い方」「主語・述語の類別については」つまずきのある児童に対して個別指導の機会を設けるなど、基礎基本を再度徹底させたい。

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	70.8	74.5	74.6
	量と測定	56.3	62.4	60.4
	図形	62.5	69.9	70.1
	数量関係	65.0	63.6	62.3
観点	数学的な考え方	58.1	59.2	58.3
	数量や図形についての技能	70.0	72.9	73.0
	数量や図形についての知識・理解	69.3	77.1	76.0



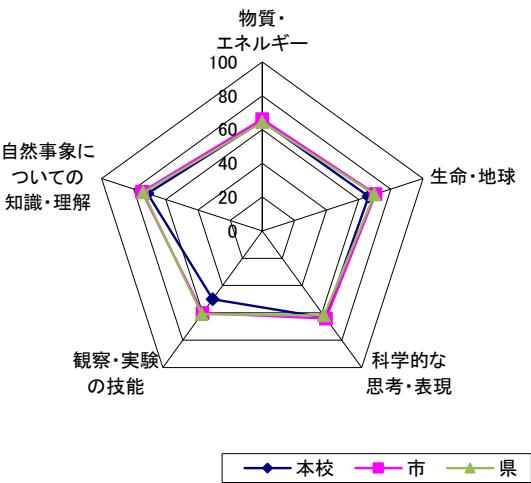
★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は70.8%で、市平均をやや下回った。 ○「1mのテープ図を4等分した一つ分の量を表す図を選ぶ」設問では、正答率が100%で、全員が正しく理解している。 ●「計算の順序に合うように、()を書き入れる」設問では、市の平均と比べ、正答率が低かった。無答率も15.0%と高めた。 ●「計算の順序に合うように、()を書き入れる」設問では、市の平均と比べ、正答率が低かった。無答率も15.0%と高めた。	計算についての基礎的な知識について再度確認し、確実に身に付けさせるとともに、計算技能の定着を図っていく。また、家庭学習や朝の学習の課題において繰り返し練習するようにして定着を図る。学習内容の定着に遅れが見られる児童には、T.Tや少人数指導を活用し該当内容の基礎となる既習事項の復習の機会を設けるようにする。
量と測定	平均正答率は56.3%で、市平均を下回った。 ○「木の幹の周りの長さを図るのに適した道具を選ぶ」設問では、正答率が90.0%で市平均を上回り、正しく理解されている。 ●「ドッジボール1個のおよその重さを選ぶ」設問では、市の正答率を大きく下回った。	量的感覚を身に付けさせるために、身の回りの物の重さや長さをはかる活動を多く取り入れ、体験を通して実感を伴った理解を促進していきたい。日常生活において、児童にはたらしかけを行い、豊かな量的感覚が身に付くようにしていく。
図形	平均正答率は62.5%で、市平均を下回った。 ○「与えられた1辺の続きをかく正三角形を完成させる」設問では、正答率が高く、定着が図られている。 ●「正方形に内接する円の直径の長さを選ぶ」設問では、市の平均正答率を大きく下回った。 ●「折り紙を二つに折って切った後、広げてできる形を選ぶ」設問では、市の平均正答率を大きく下回った。	図形における基礎的な事項である作図では、未定着である児童がわずかに見られたため、少人数指導や個別指導で対応していきたい。 朝の学習や家庭学習等で、円の半径から直径を求めたり、内接している正方形の一片の長さを求めたりする問題を繰り返し練習し、定着を図る。
数量関係	平均正答率は65.0%で、市平均をやや上回った。 ○「□を用いた乗法の式に適した場面を選ぶ」設問では、正答率が90.0%で、市の平均を大きく上回った。 ○「未知の数□として、数量関係を表した線分図を選ぶ」設問では、正答率が90.0%で、市の平均を上回った。 ●「異なる棒グラフの、棒の高さが同じでも表す人数は異なることを説明する」設問では、正答率が市の平均を下回った。無答率が低く、考えを適切に文にまとめることができなかったことがうかがえる。	立式はできていても、答えを求める過程の計算において間違えたり、根拠となる算数的な考え方が合っても文にして説明することができていなかったりする児童が多く見られた。根拠となる考えをまとめられるようにするために、自分の考えをペアやグループで発表したり、友達の考えを聴いたりする場面を多く設けるようにしていく。

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	65.0	66.1	64.4
	生命・地球	66.2	70.4	69.8
観点	科学的な思考・表現	63.6	64.1	61.9
	観察・実験の技能	50.0	60.2	61.0
	自然事象についての知識・理解	71.4	74.8	74.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は、65.0%で、市の平均をやや下回った。 ○「物の形と重さや体積と重さの関係」の設問では、65.0%と市の平均を上回った。 ○プロペラカーが動く仕組みの「実験結果からゴムをねじる回数を推測する」設問では、正答率が85.0%で市の平均を大きく上回っており、概ね理解できている。 ○「豆電球のつき方から箱の中をの回路の様子を推測する」設問では、市の平均を上回った。 ●「磁石の性質を基におもちゃを動かす方法を考える」設問では、正答率が55.0%で市の平均を下回った。 ●「電気の流れる通りの名称を答える」設問では、正答率が60.0%と市の平均を下回った。基礎的な事項の定着が十分図られていない。	どの単位においても実験前の予想、実験後の結果からの考察の時間を十分に確保し、自分の言葉で説明したり、グループやペアで話し合ったりする学習を大切にしていこう。 磁石の性質の学習では、実物を使った実験を丁寧に扱い、その性質がどのような場面で応用されるかについても、しっかりと理解を深めていこうにさせたい。 電気の通りの道や磁石の性質についての実験を通して、電気を通すもの通さないもの、磁石につくものつかないものについての知識がしっかりと身に付くように、実験後の結果とまとめの時間を十分に確保し、自分の言葉で説明をしたり、グループやペアで話し合ったりする学習を大切にしていこう。 学習内容が未定着の児童に対しては、該当する内容について個別で復習できる機会を設ける。
生命・地球	平均正答率は66.2%で、市の平均を下回った。 ○「方位磁針の適切な操作方法について」の設問では、正答率が市の平均を上回り、定着が図られている。 ○「湿度計の適切な操作方法について」の設問では、正答率75.0%で市の平均を上回った。 ●「虫眼鏡の適切な使い方について」の設問では、正答率30.0%と市の平均を大きく下回った。授業でも繰り返し丁寧に扱った事項ではあったが、定着が図られなかった。 ●「昆虫の体の色とすみかとの関係について考察する」設問では、正答率が55.0%と市の平均を下回った。提示された資料からわかることを選択できなかった児童が目立った。	昆虫や植物の観察の際は、図書資料等を有効活用し、調べたことを自分の言葉でまとめたり説明したりする活動を多く取り入れていこう。また、話し合い活動を通して、正しい知識を学級全体で共有し、一人一人が自らの言葉で説明できる力を育てていこう。 実験や観察の結果や考察をまとめる学習では、ペアやグループ学習を通して、自分たちで正しい知識理解に到達できるような授業の進め方を工夫していこう。 記述の問題が苦手な児童へは、個別での指導の時間を十分に確保し、習熟を図っていこう。

平成30年 11月 末日

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○100%の児童が朝食を毎日食べている。

○「誰に対しても、思いやりの心をもって接している」の項目において、肯定的回答をした児童が100%で、市の平均を大きく上回った。今後も、道徳の時間や縦割り班活動、普段の生活の中から、思いやりの気持ちを育む場面を大切にして指導していく。

○「自分にはよいところがあると思う」「自分のよさを人のために生かしたいと思う」「自分が持っている能力を十分に発揮したい」などの項目で市の平均を上回った。今後も、学校生活の中で活躍する場を意図的につくり、自己肯定感を高められるように指導していく。

○「家で、学校の宿題をしている」の項目は100%であり、「家で、学校の授業の予習をしている」「家で、授業の復習をしている」「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている」の項目で、市の平均を上回った。今後も、テストの復習の大切さや、自主学習のやり方やポイントを学級で確認し、自分で考えて学習する力を伸ばしていきたい。

●「次の教科は好きですか」の項目で、国語・社会・算数・理科ともに市平均を上回ったが、「次の教科などの学習は、将来のために大切だと思いますか」の項目では、国語以外の社会・算数・理科で市平均を下回った。各教科の授業の中で、日常生活と関連させて考えることができるように、工夫改善をしていく。

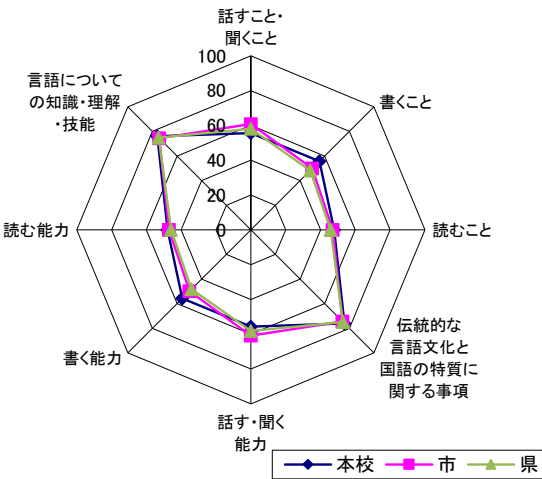
●「早寝、早起きを心がけている」「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」の項目では市の平均をやや下回った。今後は保健体育や道徳の時間で生活習慣に関する内容を扱ったり、スタンダードダイアリーの「生活しゅうかんチェック!!」を活用し、今の自分の生活習慣を見直したり、友達と自分の生活習慣を知って比較したりし、生活習慣の改善を図る機会を設けていく。

●「クラスは発言しやすい雰囲気である」の項目は、90.0%と市の平均を大きく上回っているが、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目で市の平均を下回った。グループや全体での発表の場面を工夫しながら多く取り入れたり、自分の考えを相手に分かりやすく伝えられるような論理的思考力が身につけられる活動を多く取り入れたりしていく。

●「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」の項目において、市の平均を上回ったが、「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」「勉強していて、不思議だな、なぜだろうと感ずることがある」と回答した児童は、市の平均を下回った。理科や社会科、総合の授業の中で、自ら発見し、解決できるような課題を増やし、取り組ませていく。

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	55.6	60.8	58.1
	書くこと	55.6	49.8	48.3
	読むこと	47.8	47.0	45.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	76.0	74.4	74.8
観点	話す・聞く能力	55.6	60.8	58.1
	書く能力	55.6	49.8	48.3
	読む能力	47.8	47.0	45.9
	言語についての知識・理解・技能	76.0	74.4	74.8



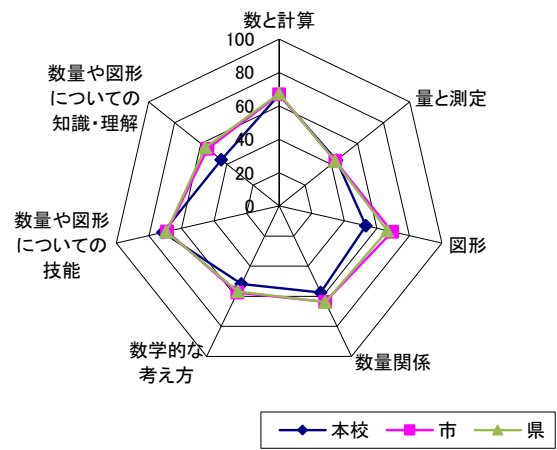
★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は55.6%で、市平均を下回った。 ○「話し合いにおける考えの共通点や相違点を整理して話す」設問では概ね理解することができていた。 ●「話し合いの中で意見の共通点を考えて書く」設問や「話し合いにおいて司会者の役割を理解し進行する」設問では、どちらも市の平均を下回った。「話し合いの中で意見の共通点を考えて書く」設問では空欄にあてはまる言葉を記述することができない児童が多かった。	国語の学習内容を生かして、各教科や特別活動の際に、話し合いや議論をする機会を多く設けていく。その際、様々な児童が司会者の役を経験できるようにしていく。また普段の授業においても自分の考えを文章で表す機会を増やしていく。
書くこと	平均正答率は55.6%で、市平均を上回った。 ○「掲示物の内容に合う資料を選ぶ」設問では概ね理解することができており、「資料(表)を基に説明する」設問とともに市平均を上回った。 ●「インタビューの結果を基に、必要な内容を整理して書く」設問では、市平均をやや下回った。また空欄に当てはまる形で記述することができない児童が多かった。	人の意見を聞き、その内容を整理して書く経験が不足している。国語科の学習を中心に、各教科や特別活動の際に、人の意見を聞き、その結果を整理してまとめさせることで文章表現力を伸ばしていきたい。また、基礎学力を伸ばすために読書指導にも力を入れていく。
読むこと	平均正答率は47.8%で、市平均をやや上回った。 ○「叙述を基に、登場人物の気持ちを想像して読む」設問では、概ね理解することができていた。 ●「段落の要点を捉えて要約する」や「中心となる語や文を捉えて読む」や「文章の要点や細かい点に注意しながら読み、整理する」設問では、市平均を下回った。	説明的文章を読む機会を多く設け、それぞれの段落を意識し、各段落の役割を考えながら読む習慣を付けさせる。また文章を要約したり、小見出しをつけたりする学習活動を多く取り入れていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は76.0%で、市平均をやや上回った。 ○漢字の読み・書き問題について概ね市の平均を上回っており、特に読みは学習内容が定着している。 ○「漢字の構成(部首 たれ)」や「漢字辞典の使い方」の設問では、市平均を大きく上回った。 ●「慣用語の使い方」設問では、市平均を大きく下回った。 ●「日常使われている簡単な単語の、ローマ字の読み方」設問では、市平均をやや下回った。	漢字辞典の使い方や漢字の読みの学習については多くの児童が理解しているが、漢字の書きや簡単な単語のローマ字の読み方については、習熟が図れていない部分があり、個人差も大きい。個に応じた課題を与えたり、振り返りのテストを行ったりして習熟を図りたい。また、慣用語については国語以外の時間にも少しずつ紹介するなど、日頃から慣れ親しむようにしたい。

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	66.7	66.9	67.4
	量と測定	44.0	43.2	43.0
	図形	53.3	69.4	66.5
	数量関係	57.5	63.7	63.9
観点	数学的な考え方	51.8	57.5	56.8
	数量や図形についての技能	71.3	68.8	69.3
	数量や図形についての知識・理解	44.4	54.9	56.4



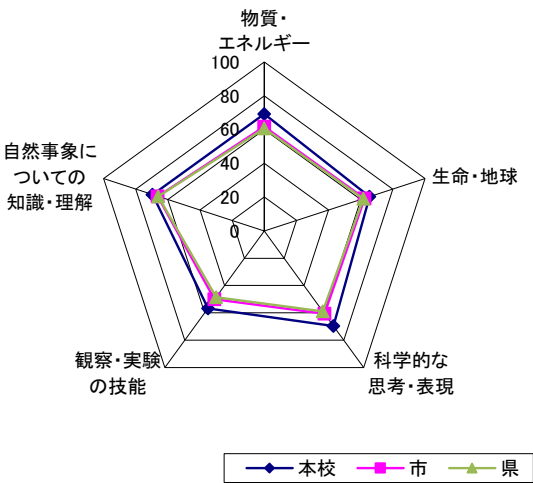
★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率が66.7%と市の平均とほぼ同じだった。 ○「3位数×2位数＝4位数のかけ算、帯分数－真分数の計算(同分母分数・繰り下がり)」の設問では、市の平均を大きく上回り、正しく理解している。 ●「1.8は0.01を何個集めた数かを選ぶ」設問では、正答率が低かった。 ●「数直線上の矢印の値を表す数を分数で表す」S堵挽では、正答率が低かった。	小数、分数の意味を正しく理解できるよう、もう一度丁寧に確認した上で、文章問題にも取り組んでいくようにする。計算練習は、今後も授業で計算ドリルを活用するとともに、朝の学習や家庭学習で繰り返し練習し、定着を図っていく。 また、先を読んで時間内にすべての問題に目を通すことができるよう、時間配分についても指導する。
量と測定	平均正答率が44.0%と市の平均をやや上回った。 ○「図をもとに180°より大きい角度の求め方を説明する」設問では、正答率が66.7で市の平均を大きく上回った。 ●「はがきのおよその面積を選ぶ」設問では、正答率が低かった。	1mや1cmがどれくらいの大きさなのかを実際に体験したり、図に表したりするなどして、その問題の状況を具体的に想起し、考えられるようにする。また、日常生活の中でも広さの単位を用いながら、広さを概算する場を取り入れていき、「どうしてそう考えたか」を確認することで、広さの概念を確かなものにしていく。
図形	平均正答率が53.3%と市の平均を大きく下回った。 ●「平面上にあるものの位置を表す」設問では、正答率が低かった。 ●「コンパスを用いて、与えられた2辺の続きをかくて、平行四辺形を完成する」設問では、正答率が低かった。	問題の意味を正しく理解するための読解力が育つよう、国語と関連付けながら、文章問題を解く機会を多く設定して指導していく。また、作図については、既習の分度器や三角定規、コンパス等の使い方について振り返りながら指導を進め、個に応じた指導及び活動を取り入れていく。
数量関係	平均正答率が57.5%と市の平均を下回った。 ○「ブロックの並べ方とブロックの個数の関係を式に表す」設問では、正答率が73.3%と市の平均を大きく上回った。 ●「折れ線グラフと共に示されている棒グラフの一番低い値を読み取る」設問では、市の平均と比べて正答率が低かった。 ●「買い物の場面で、一つの式に表した考え方を完成させる」設問や、「1人の考え方を選び、1つの式に表し、おつりを求める」設問における正答率が低かった。	折れ線グラフと棒グラフの読み取りについては、複数のグラフと比較したり、2種以上のグラフが重なった状態で読み取ったりするなど、多様な角度からグラフを読み取らせるような問題に取り組ませる。また、他教科でグラフを扱う機会を生かし、その都度読み取り方を確認することで定着を図っていく。 買い物に関わる問題の正答率が低かったので、実際の生活と結び付け、買い物の状況を想定し、問題文で示される状況をとらえられるよう繰り返し取り組ませていく。

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	69.2	61.7	60.7
	生命・地球	65.5	62.4	61.6
観点	科学的な思考・表現	69.6	60.6	58.9
	観察・実験の技能	56.7	50.1	48.6
	自然事象についての知識・理解	69.5	66.3	66.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は69.2%で、市の平均を上回った。 ○物質の温度による体積の変化については、すべての設問において正答率が高かった。特に「金属の球を温めると輪を通らなくなる理由を記述式で説明する」設問では、正答率が100%と高かった。 ○「予想が一致した場合の結果を見通することができる」、「結果を見通して実験を構想することができる」設問では、どちらも市の平均を大きく上回った。 ○「盛んに泡を出しながら沸き立つことを『沸騰』とわかる」設問では、正答率が市の平均を大きく上回った。 ●「沸騰している際、水の中から出てくる泡が『水蒸気』とわかる」設問では、正答率が低かった。	今後もどの内容についても実物を使った実験を丁寧にを行い、理解を深めていくようにする。また、実験前の予想、実験後の結果からの考察の時間を十分に確保し、自分の言葉で説明したり、ペアやグループで話し合ったりする学習を大切にしていく。 「沸騰」という事象については分かっているので、水が液体や気体に変化した様子を思い出させ、水のそれぞれの状態を指し示す言葉についても一度定着を図っていく。
生命・地球	平均正答率は65.5%で、市の平均を上回った。 ○「人の体のつくりと運動」に関しての設問では、すべての問題で80%を超える高い正答率だった。 ○「天気の様子」では、「気温の変化から天気の様子を推測し、理由を説明する」設問で市の平均を大きく上回る正答率だった。 ○「月と星」では、「星座の動きを捉えるための適切な記録方法や、月の動きを方位で表す」設問において、正答率が高かった。 ●方位磁針の名称や適切な操作方法については、市の平均と比べて正答率が低かった。	予想、実験・観察、結果の考察、振り返りの過程を大切にし、それらを日常の事象と結び付けて考えるようにし、理解の定着を一層図っていききたい。 方位磁針の正しい使い方については、どうしてそのように使うと良いのかよく考えて理解させてから、観察や測定、実験などを行っていく。

平成30年 11月 末日

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○全体的に市の平均を上回る肯定的回答が多い。
○教科によって各々好き嫌いはあるものの、「学習は役に立つ」の項目で100%、また4教科すべてにおいて将来の生活に必要なだと考えていると100%の児童が回答しており、意欲をもって取り組んでいる児童が多い。
○朝食は、100%の児童が毎朝食べている。
○「毎日の生活が充実していると感じている」「自分が持っている能力を十分に発揮したい」「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」の項目で100%、「自分にはよいところがある」の項目においても93.3%と市の平均を大きく上回っており、自尊心が高まっている。引き続き、良いところを褒め合う活動や、活躍する場面を積極的に設定していく。
○「クラスは発言しやすい雰囲気である」「友達の前で自分の考えを発表することは得意である」「学級活動の時間に、友達と話し合っクラスのみまりなどを決めている」の項目でも、市の平均を大きく上回った。また、「人と話すことは楽しい」「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」の項目についても100%であり、本校の重点目標の成果が表れている。
●話し合いを好む一方で、「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」の項目では73.3%であり、市を下回っている。意見を言う機会が均等に与えられるよう、場の設定を工夫する。
●「できるだけ自分ひとりの力で課題を解決しようとしている」「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」の項目では、市の平均を下回った。グループ活動だけでなく、個々で取り組む課題もスモールステップを踏みながら設定するようにする。
●振り返りの活動を充実させ、児童が自分の理解度や課題を把握することができるようにする。

宇都宮市立城山西小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
聴く指導	相手理解を意識した「聴く」態度を醸成する。言語活動の指導に力を入れ、ペアやグループでの話し合いを積極的に取り入れることで、自分の考えをまとめ表現する機会をできる限り多く設定するようにして、考えながら聴くことを意識させる。	児童生徒質問紙から、「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」と全員が肯定的回答をし、聴く姿勢は身に付いている。しかし「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」と回答した児童は4年生73.3%5年生60%と市の平均を大きく上回っているものの、苦手意識のある児童もあり、自分の考えを的確にまとめることに課題がある。
めあての提示	学びのゴール(目標)を明確に示し、だれも見通しをもった学びができるよう、めあての提示を工夫していく。一人一人がゴールをイメージした主体的な学びになるようコーディネートしていく。	授業の目標(ねらい)を示すことや授業の終わりに振り返る活動を設けることについては、板書カードを全学年共通で使用し、全職員で共通理解を図り取り組んできた。授業の目標(めあて)の提示については、4年生100%5年生93.3%の肯定的回答となっており、昨年度より上昇している。
家庭学習の充実	地域学校園で「宿題プラス1」を合言葉とした取組を実施している。授業の中で問題解決力を高める指導(自分で類題やさらなる調べができる、間違いを自分で確かめて直せる等)をすることで、自ら主体的な学びができるようにしていく。	4・5年生ともに、「家で、学校の宿題をしている」に肯定的回答をした児童が100%で、よく身に付いている。しかし、自ら取り組む態度に関わる「家で、自分で計画を立てて勉強している」は、75%程度である。さらに、学校の授業の復習・予習、テストで間違えた問題についての学習などに目を向けさせた家庭学習に取り組めるようにしたい。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
基礎的事項の設問において、市の平均正答率を下回るものが多く見られ、20ポイント以上下回っている設問も複数見られた。そのため、基礎・基本の学力の定着に一層力を入れ、全校体制で取り組む必要がある。	児童の学力を定着させるため、わかる授業の実現に向けた取り組みの充実。	だれもが分かる授業の取り組みをさらに強化するため、次の2点の取り組みを徹底していく。 ①めあての提示と、板書に使う色の全校統一(めあて→青、まとめ・重要事項→黄色、振り返り→赤など)。 ②授業ごと、または単元ごとの振り返りの確保と充実。